



平塚市市制施行90周年



人と自然がふれあうまち
つなぐ未来へひらつか90

第10回

ひらつか地域づくり 市民大学 開催報告

思いを紡ぐ新しいわがまちづくりに向けて



開講式
基調講座

10月23日(日) 「誰一人取り残さない共生社会の実現に向けて」

講師: 勝部 麗子 氏 (豊中市社会福祉協議会事務局長)

実践講座
第1回

11月20日(日) 「地域の力で支え合いの仕組みをつくる」

実践講座
第2回

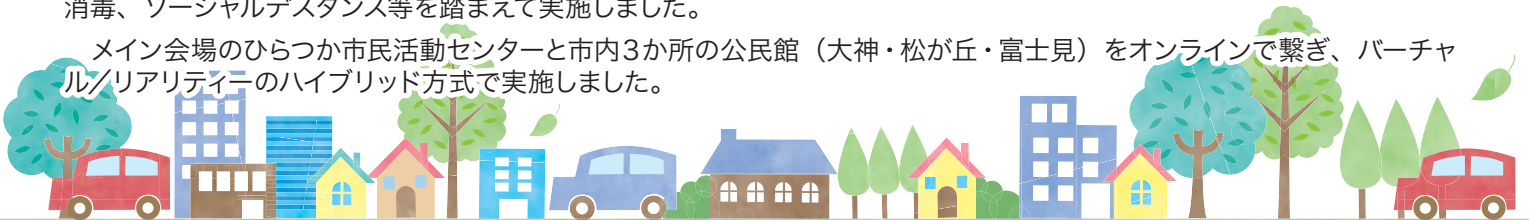
12月11日(日) 「地域の人や資源を活かしてまちを磨く」

実践講座
第3回

12月25日(日) 「新しい地域づくりの一步を踏み出すために」

本年度は新型コロナ禍での開催となったため、万全な感染防止対応をすべく参加者の検温、マスクの着用、アルコール消毒、ソーシャルデスタンス等を踏まえて実施しました。

メイン会場のひらつか市民活動センターと市内3か所の公民館(大神・松が丘・富士見)をオンラインで繋ぎ、バーチャル/リアリティーのハイブリッド方式で実施しました。



主催 平塚市(協働推進課・中央公民館・福祉総務課)/NPO法人湘南NPOサポートセンター

10回目となる「ひらつか地域づくり市民大学」は、令和4（2022）年10月23日（日）を皮切りに全4回の日程で開講しました。本事業は平塚市政施行90周年の記念事業として、ひらつか市民活動センターの会場を拠点に、大神公民館、富士見公民館、松が丘公民館の3つの公民館をオンラインで繋ぎました。各会場は、地域活動の実践者や福祉村で活動している方々が参加され、意見交換等を通しての交流も促進できました。

開会に当たり、落合平塚市長より「地域課題解決のヒントになり、未来に向けたまちづくりに生かしてほしい」と、ご挨拶いただきました。



講座ガイダンス

平塚市の人口は20年後に生産年齢は▲30%、30年後は高齢者総数も減少が予想されます。今回は、選ばれるまち、住み続けたいまちを目指し

- 様々な世代の人たちの「思い」を「かたちに」、そして「行動」に！
- 「思い」を紡ぎ、「知恵」を出しながら創りあげていく「仕組みづくり」とは！

をテーマに基調講演と全3回の実践講座を合わせて組み立てました。

「地域で困っている人を生みださない仕組み」を大切だと思える人たちの増やす活動を例に、地域での取り組みの方向について学んでいただきました。

基調講座

10月23日（日）13:30～16:00 参加者:57名（各会場から参加）
「誰一人取り残さない共生社会の実現に向けて」

講師:勝部 麗子 氏（豊中市社会福祉協議会事務局長）

勝部麗子さんは、全国で第一号のコミュニティソーシャルワーカーとなり、地域住民の力を集めながら数々の先進的な取り組みに挑戦され、その活動は大阪府や国の地域福祉のモデルとして拡大展開されてきました。NHKドラマ「サイレント・プア」のモデルであり「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演。著作に「ひとりぼっちをつくらないーコミュニティソーシャルワーカーの仕事」があります。



基調講演では、コミュニティソーシャルワーカーが支える住民主体の地域活動の事例を学びました。住民に身近な地域での取り組みとして、校区福祉委員会、豊中めぐり（新たな担い手の育成）、福祉なんでも相談窓口（地域福祉の活動拠点）、CSW（コミュニケーションソーシャルワーカー）など、特に制度の狭間に関する縦割りの解消を目指し、相談は「断らない相談」が基本とのことです（排除しない地域づくり）。

地域共生社会への新たなステップとして「一人も取りこぼさない」「排除から包括へ」「支えられた人が支える人に（学習支援など）」「すべての人に居場所と役割を」として、一人も取りこぼさない早期発見・アウトリーチの必要性を訴えました。措置から契約へと福祉制度が大きく変化し、SOSを出せない人、サービス拒否者はつながらない。民生委員による早期発見・住民による見守り・多機関との連携による早期発見が重要、早期発見には高齢者の緊急時見守りネットワークの実践などをご紹介いただきました。

「一人も取りこぼさない」の具体例として、「ローラー作戦による見守りマップ作り」「マンションサミット交流会」「安心キットの配布による掘り起こし」「生活困窮者支援」「外国人向け相談」「家を失った人たちへのアウトリーチ」など。また、豊中のライフセーフネットの仕組みとして、市民・福祉なんでも相談窓口を設置しCSWが一体となり情報提供、相談、支援を行っているそうです。（地域福祉ネットワーク会議/地域包括ケアシステム総合推進会議とも連携）

その他の取り組みの取組として、以下の事例が紹介されました。

- ・ 学区での助け合い（日頃の見守り：災害時に効果）/学区福祉委員会活動（子育てサロン・空き家サロン等）
- ・ 定年後の男性の都市型農業でまちづくり：移動販売
- ・ 高齢者問題でまちづくり（すべての人に居場所と役割）：介護予防/協議体/福祉便利屋/買い物支援
- ・ マンション防災：マンションサミット/避難訓練/学生ボランティア登録
- ・ 子ども支援でまちづくり：子ども居場所づくり地域福祉モデル事業
- ・ 引きこもり支援でまちづくり：支えられていた人が支え手になる

コロナ禍の影響でこれまでの手法が通用しなくなりましたが、集まらなくてもつながる手法を模索し、実践していると話されました。

■ 参加者のアンケートから（抜粋） ■

- まちづくり、地域市民活動について講演いただいて、コミュニケーションを通じて繋がりを持つことが、長期的に見て活性化になる点が理解できたことが良かった。
- ごく最近、空き家問題で苦労したので、空き家問題が全国的な問題で、簡単には解決しないということを理解できた。
- 空き家については気になっていたのですが、他市の事例などを含み話が聞いて参考になった。
- 自分の問題としてとらえる事、地域で対応して行くことなど、考えなければいけないと“気づき”があったことは良かった。

ひらつか市民活動センターの様子



大神公民館の様子



松が丘公民館の様子



富士見公民館の様子



■ 勝部さんのご講演から以下のような学びが得られました ■

- ★ 制約のある中での工夫と知恵を出しあい社会参加の新しい形を！
- ★ スモールステップを積み上げる諦めない心！
- ★ 社会資源の活用は本人が主体化しないと始まらない！

勝部さんの実践的な取り組みはまさに「誰一人取り残さない」の言葉通り、各会場からは感嘆の声が上がりました。

11月20日(日) 13:30~15:30 「地域の力で支え合いの仕組みをつくる」

平塚市内で活動する3つの地域づくり事例をご紹介します。

- ① 撫子原自治会 臼井様：自治会による防災のための取り組み
- ② 須賀新田シニアクラブ会長 藤嶋様：地域住民の暮らしの足を支える仕組みづくり～須賀新田シニアクラブの取り組み～
- ③ 崇善地区ちいき情報局 堀井様：ちいきの情報発信～動画によるPRでちいきを元気に～

それぞれの地域の支え合い仕組みづくりにご努力された事例を、背景⇒現状把握⇒課題認識⇒目標設定⇒実施計画⇒実施⇒効果確認⇒今後の取り組み⇒歯止め等のステップで紹介していただきました。お話を伺い、言葉では説明できないような挫折、苦勞、が何度あってもくじけない人材、且つ人の繋がり的重要性を感じました。

●撫子原自治会による防災のための取り組み

撫子原自治会は海拔3～4m地域が約90%を占め海岸・河川に最も近い自治会であり地震・津波への脆弱さ・住民の無関心さが大きな課題だったと言います。津波の想定高さ変更が6.9→9.6mへ、到達時間は6分と見直しをしました。そこで目標を「逃げる」「6分以内」に設定し避難マップを作成、行政を巻き込み複数団体訓練を実施し、毎年避難訓練参加者も減少する中100人→400人に増加しました。また市の助成金を利用し、なでしこ地区逃げ地図を全戸配布しました。この活動に伴い避難後の助け合いが出来るよう雰囲気具体化し、絆づくりの推進にも大いに役に立っているそうです。



●須賀新田シニアクラブによる住民の暮らしの足を支える仕組みづくり

須賀新田地区は、人口577人、高齢者化率：24%の住宅地域で近くに商店・病院がなく、スーパーマーケット、ドラッグストアまで1.4km、最寄りのバス停は1km先にあり、生活難民になっている状況でした。藤嶋さんは自治会会長2年、自主防災会会長を6年間歴任し、介護予防と日常生活支援の総合事業を目標に須賀新田シニアクラブを立ち上げました。発足に当たり自治会、市役所の協力を得て、資金についてはNPO活動保険、県モデル事業等の助成を得られたそうです。事故に対応する保険については、平塚市市民活動災害補償、NPO活動総合保険で抜けのない準備を行い、外出支援の取り組みを実践しています。



●崇善地区～ちいきの情報発信～動画によるPRでちいきを元気に

ちいき情報局の運営を担う堀井さんは現役時代映像関連の仕事に従事され、動画投稿することでより地域を元気にしたいと感じ、崇善地区のちいき情報局を活性化するために立ち上がりました。動画は動きがあり分かりやすく臨場感がダイレクトに伝わります。動画は見やすくするため、5分以内を心がけて編集しました。

最大の課題は仲間づくり（人材）。協力者を確保するため、動画投稿の楽しさを味わい実感してもらうことが重要と考え「七夕踊りだ全員集合 明石町」を企画しました。仲間づくりを重点に置き、一緒に実行すると楽しくなれるような関係性を作ってきたと言います。動画が自治会と住民とを結びつける強力な接着剤になり、撮影を通してちいき情報局の宣伝及び人材確保につながった点が新たな発見だったと話されました。



実践講座1回目では以下のような学びが得られました。

- ★共有できる課題と目標を分かりやすく！
- ★できることからの工夫、楽しいチャレンジが仲間を増やす！
- ★支え合う仕組みは「いいね」「やってみよう」「できたね」の繰り返し！

■参加者のアンケートから（抜粋）■

- どの地域でも核になる人（実行力のある）が引っ張っている。汗をかいているのがよく分かった。仲間作りが重要であること、どこの地域でも難しい問題です。
- 平塚市内でも各地区によって独自の取り組みがあり、役に立つ情報がありました。いろいろな地区の横断的に情報が集まれば（良い所を取り入れ）より良い地区になるのではないかと思います。
- 各地域の取り組みを聞くことができ、とても貴重なお話を聞けて良かったです。特に崇善地区の動画で地域のアピールをしていることについて、今の時代に合っていると思いました。

12月11日(日) 13:30～15:30 「地域の人や資源を活かしてまちを磨く」

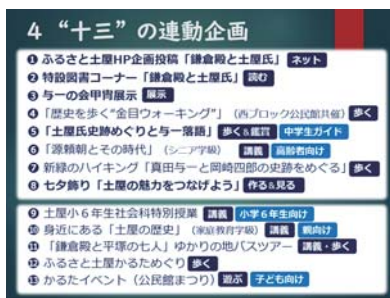
平塚市内で活動する3つの地域づくり事例をご紹介します。

- ④ 土屋公民館 秋山様：歴史上人物(土屋三郎氏)をテーマにみんなが関わる地域づくり
- ⑤ やわた子ども村 田中様：地域・学校・公共施設等との連携による子どもの居場所づくり
- ⑥ 城島地区地域活動推進会議 石塚様：地域資源(農地)を活用した地域活性化の取り組み

今回の3地域事例ともに共通している課題は、(1) 地域の高齢化 (2) 若い人・子どもの地域参加が低下傾向にあると言えます。この課題を地域の資源を最大限生かし、諦めずに取り組んでいます。

●歴史上人物(土屋三郎氏)をテーマにみんなが関わる地域づくり

土屋公民館の秋山主宰が中心になり土屋の歴史を用い、高齢化に伴う地域歴史の伝承危機、史跡劣化、史跡の消失等の課題を小中高生も巻き込み「13の連動企画」を立案しました。ちいき情報局での発信、特設図書コーナーや甲冑展示、土屋史跡めぐりと与一落語、また土屋音頭を復活させたと紹介がありました。以前、単発で取り組んだ内容もあり、現在は、これら事業の定着と情報展開について種々に模索検討しているとのことでした。



●やわた子ども村～地域・学校・公共施設等との連携による子どもの居場所づくり～

八幡小学校において放課後学童を利用する家庭が急増し、2021年度3か月間試行実施後、放課後子ども教室を正式に立ち上げました。(以前から放課後児童クラブを取り組んでいた経緯があります) この活動を実行するに当たり、教育委員会・市役所青少年課・八幡小学校と事前に連携し且つ専門性を必要とする研修等を受け支援者の資格所得し活動しているそうです。運営組織の委員は全てボランティアで会費は3,000円。メンバーの多くは子育てが終わったお父さん、お母さん、また大学卒業後もこの活動を支えているメンバーもいて幅広い交流が出来ているとのこと。田中さんは、この活動の目標は放課後どんな子どもたちにも居場所を作ることが「やわたの夢」と説明されました。



●地域資源(農地)を活用した地域活性化の取り組み：城島地区地域活動推進会議

城島地区は平塚市内でも高齢化率36%と高く、全地域が市街化調整区域の農業振興地域です。農産物が豊かで景観が良いという地域の利点を生かし、高齢者の活躍を中心に支え合い助け合う場をつくらうと神奈川県との協働事業に平塚市・NPOと連携して提案し活動を開始しました。城島地区地域活動推進会議に里づくり事業実行委員会を新設、東海大学生や平塚農商高校生の協力を得て令和3年度には若者から高齢者まで楽しめる「きじまるシェ」を立ち上げました。と同時に米づくり野菜づくり体験など地域の専門性を活かした取り組みを実践しています。今後は活動の継続化と自立化が大きな課題となっています。



実践講座2回目では以下のような学びが得られました。

- ★世代や立場を超えた交流が地域課題の解決に！
- ★多くの人を巻き込み、多様な解決策を持ち寄ることが効果的！
- ★日頃の挨拶や情報交換の延長線上に世代間交流が生まれる！

■参加者のアンケートから(抜粋)■

- 3つのテーマはそれぞれ立上げの経緯及び取り組み内容は異なるが、やはり強い意思とリーダーシップを持った信念の人が必須であり、それに共感する人々がいること(リーダーの巻き込む力)の必要性を感じた。
- 発表テーマはどれも素晴らしいものであるが、そこまで到達するまでには、苦労したり、失敗したりしたことが多々あったと思う。それらを克服して現在に至ったものと思われる。今後は、失敗とその挽回、克服方法の実例を紹介していただくと、非常に参考になると思った。
- 質問事項として、3テーマに共通することとして、スタッフの募集、地域・団体との連携、世代交代としたが、これはどの場面でも出てくる項目であり、地域活動の課題解決のテーマにもなると言えそう。勿論、これは前年に行った自治会アンケートとも共通である。

最終回は湘南NPOサポートセンター理事の宮崎道名が講師を務め、平塚市の人口変化に伴う大きな影響が、各地域で起きていることの現状を説明しました。

●講座の概要

平塚市の人口動向とこれからの地域活動のポイントデータを元に説明しました。

平塚市は75歳以上の後期高齢者数が前期高齢者数を超え増加していることが特徴的です。今まで交通安全、防犯、お祭り、行事等地域を支えてきた人がいなくなり、同時に独居世帯も増加傾向で2人以下世帯が全体の55%を占めています。また、近隣インフラ不備、老朽化による下流領域での大水・浸水被害等が頻繁に発生することが予測されます。

行政にまかせておけば何でもやってもらえる時代は終わり、暮らしを守るのは自分たち自身であり、自主的な地域活動や自治会活動が益々重要になってくると言えます。

しかし自治会町内会アンケートの回答結果からも、兼務等多忙により業務遂行にかなり無理がある現状で、例えば自治会長以上の活動時間は2.7H/回、8.5日/月で平均して、年間276時間もの時間を地域活動に充てている現状が見えます。従って自治会頼みの体制も難しく、長期的な視点を持った担い手の育成と地域や組織を横断的に見て動ける人材の育成が喫緊の課題と言えるでしょう。

人口減少・高齢化に伴い、今後は行事のやり方やあり方の見直しを図ることが求められています。これからの地域づくりは、これまでと前提条件が異なることを背景に、地域の声を幅広く聴き（特に若い世代の声）ニーズに対応する仕組みづくりや、地域資源を活用しながら主体的な地域運営組織づくりも必要と思われます。子どもたちが帰ってきたくなくなるような優しいまちにしたいために、ぜひ皆さんと一緒に取り組んでいきましょう。



最後は受講生に修了証を贈呈しました

令和4年度第10回ひらつか地域づくり市民大学講座のまとめとして、理事の鈴木奏到より以下のような説明がありました。

今年度講座のまとめ

① **地域の“思い”の再確認と共有**
→ **地域の“資産”の再発見と活用**

- ・ヒト ・コト ・バショ
- ・世代を超えた“声”の受け入れと“情報”の共有
- ・わがまちを磨いていこうとする気持ちの醸成と発信

② **つながりからの行動へ**
→ **試行・挑戦から実践・実装へ**

- ・それなら参加してもいいな機会、なまかなれる機会づくり
- ・企画・段取り・実践・・・ヨコの役割と連携
- ・“チャレンジ”が “モデル”に そして“新たな制度・仕組み”へ

これからのまちづくりへ
～地域の主体性と行政・関係機関との共創に向け～

- “わがまち”を運営していく横断組織化
- 使える制度、支援策のリサーチと活用
- 地域を動かすプラットフォームとしての拠点のありよう
→例えば、公民館、福祉村、コミュニティスクール

・自己責任と主体性
・企画・実践
→わがまち運営

・現行制度内での柔軟支援
・新規事業化への試行
→健全財政と先進行政

・施設と技術の活用
・新規ビジネス
→信頼と地域貢献イメージ

■参加者のアンケートから（抜粋）■

- 地域づくりに関して、地域資源及び公共資源の両方を活用していくことが重要と思った。
- 平塚市内の他地域の高齢化を改めて知ることが出来た。他県の地域の活性化が勉強になった。
- 地域づくりの問題点の確認方法の例や対策方法の例聞けて良かった。
- 講義がとてもよかった。事例をもっと聞きたかった。
- 宮崎さんのお話を聞いて、平塚市の課題が山積みで現状をそこまで理解していなかったと反省しました。そこから、自分たちに何ができるかをグループのみなさんと話す機会があり、貴重な時間でした。
- 平塚市内、素晴らしい活動をしていることを知りました。自身の学びになりました。この学びを地域づくりに活用したいです。本当にありがとうございました。

「ひらつか地域づくり市民大学」講座開設の背景

当時、平塚市では地域の多種多様な課題を解決するために、住民一人ひとりや自治会を含む地域活動団体、町内福祉村、NPO・市民活動団体など各団体が連携し、地域の軸を中心とした課題解決に取り組むための「まちづくりセンター（公民館のまちづくりセンター化）」を検討していました。

そのためには、地域の様々な団体や機関をコーディネートし、地域経営の視点を持ちながら、ニーズに基づいた計画づくりを推進することができる「コーディネーターの育成」が重要であるということから、平成24(2012)年、平塚市が行政提案型協働事業として提案、採択されました。平成25(2013)年9月、第1回ひらつか地域づくり市民大学講座を開講し、地域コーディネーターの育成に向けて実施してきましたが、数年後、まちづくりセンター化は検討不十分ということで見送られた経緯があります。

しかしながら、地域課題に主体的に取り組む人材の育成は急務であることから、第4回（平成28(2016)年）は講座の内容を一新し、第5回（平

成29(2017)年）には「ひらつか地域づくり市民大学」の目的・理念を平塚市と共に新たに掲げて講座を開催してきました。

そのような中、社会は目まぐるしく変化し少子高齢化は歯止めが効かず、地域活動の担い手不足が地域課題のトップに挙げられてくるようになってきました。「ひらつか地域づくり市民大学」では第7回目（令和元(2019)年）から「住民自治の再構築」をテーマに、第9回（令和3(2021)年）にはコロナ禍を背景に「新しい地域づくり」をテーマに企画・実施してきました。

多彩な講師陣による講演やワークショップの数々は、その時々で大きな学びが得られたことと思います。加えて平塚地域づくりの様々な事例は、共にまちづくりを実践する同じ仲間として共感や勇気をもらいました。

これまで1,000名を超える市民の皆さんが講座に参加され、講座での学びを活かし様々な実践を地域の中で繰り広げてくださっています。10年間「ひらつか地域づくり市民大学」に心を寄せ、前向きに取り組んでくださった方々に改めて御礼を申し上げます。

「ひらつか地域づくり市民大学」全10回各回のテーマ

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 第1回 平成25(2013)年 9月開講 | 「今、地域づくりを考える」 |
| 第2回 平成26(2014)年 9月開講 | 「地域づくりの担い手としてのノウハウを学ぶ」 |
| 第3回 平成27(2015)年 7月開講 | 「自分の住む地域の魅力を知って活かそう」 |
| 第4回 平成28(2016)年 7月開講 | 「平塚の地域づくり～過去・現在・未来を考える」 |
| 第5回 平成29(2017)年 7月開講 | 「地域づくりのためのコミュニケーションを学ぶ」 |
| 第6回 平成30(2018)年 7月開講 | 「平塚の地域づくりの事例から学ぶ」 |
| 第7回 令和元(2019)年 7月開講 | 「多世代連携のまちづくり」 |
| 第8回 令和2(2020)年 11月開講 | 「持続可能な地域運営に向けたリスタート」 |
| 第9回 令和3(2021)年 12月開講 | 「新しい地域づくりに向けて自治の力を地域で育てていく」 |
| 第10回 令和4(2022)年 10月開講 | 「思いを紡ぐ新しいわがまちづくりに向けて」 |

*各回の報告は、湘南NPOサポートセンターのWebサイトからご覧いただけます。

<http://snposc.org/hiratsuka/>

おわりに・・・

私たちの先達はその時々禍を乗り越え、今のまちをつくってきました。
そこには大切な物語があります。

わがまちを愛する気持ち、子に孫に引き継いでもらいたい思いを
紡いできた足どりです。

わがまち物語という終わりなきドラマづくり。

舞台は？ 脚本家は？ スポンサーは？ そして主役は誰か？
楽しいところに人は集い、元気が生まれます。

思いを形に！ 知恵を力に！ できることからしたいことへ！
人のつながりを大切に共に考え、行動することから、

これからの“わがまち物語”をつくっていきましょう！

ひらつか地域づくり市民大学の目的と理念

地域の様々な団体や個人をつなぎ、地域課題などに住民自らが取り組み、住みよい
地域づくりを進めていくための人材の育成や地域活動に携わる人材のすそ野を広げ、
協働社会の基礎をつくります。

1. 自らの学びの成果を地域の中で活かす「協働の担い手」を育てる
2. 地域住民や市民団体が相互に連携・協力して「協働の輪」を拡げる
3. 地域の課題解決に向け、住民が知恵と力を出し合って取り組む「協働の
まちづくりの基礎」をつくる

発行日：令和5（2023）年3月

全体監修：鈴木奏到

執筆・編集：坂田美保子 鈴木奏到 津田潤 田中勉 長谷川正幸

撮影協力：岡部詔重

デザイン：氏家真美

企画・発行：特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

協力：平塚市協働推進課 平塚市福祉総務課 平塚市中央公民館

特定非営利活動法人
 湘南NPOサポートセンター

〒259-1217 平塚市長持568-5

URL <http://snposc.org>

e-mail shonan@snposc.org

本書は令和4年度、平塚市協働推進課、平塚市中央公民館、平塚市福祉総務課、NPO法人湘南NPOサポートセンターが
協働して実施した「第10回ひらつか地域づくり市民大学」の報告書です。

